

I. 主題と副題

年度	研究主題・副題
4	学びを深める子の育成 ～対話活動を通じて、子どもが考えを広げ深める授業づくり～
5	学びを深める子の育成 ～対話活動を通じて子どもが考えを広げ深め、全体で分かち合う授業づくり～ (聴き合える学級づくりを土台とした)
6	仲間と話し合うことで学びを深める子の育成 ～子どもが考えを「もつ→広げる→深める」ことのできる授業づくりを通して～

II. 令和六年度の研究から令和七年度の研究へ

(I) 研究主題

仲間と話し合うことで学びを深める子の育成

～子どもが考えを「もつ→広げる→深める」ことのできる授業づくりを通して～

も つ ↓ 言 う ↓ 聴 く	もてない	 授業に参加できていない	 授業についていけない	 考えがまとまらない	・文章で表す ・絵や色で表す ・数値で表す (例: 心の数直線) ・選択肢から選ぶ など 考えの表し方は工夫できる!	
	もてる	 自分の考えをもてる	 自分の考えを書ける	・書いたことを言う (読む) ・絵の説明をする ・色や数値の理由を言う ・選んだ理由を言う など 言葉を発することが難しい 児童もいるため、「ほかほか反 応うちわ」(R6よしのめ) など の工夫もあり!		
	言えない	 考えを言いたくない	 言い方が分からない		 自分の考えに自信がない	
	言える	 自分の考えを言える	 考えの理由が言える		考えの押しつけや否定が多くな ってしまうのは、自分の考えをし っかりもっているから。自分の考 えを言えるようになって増えてく るタイプだが、それは成長過程!	
	聴けない	 考えを言うだけで終わる	 自分の考えを押しつける			 否定が多い
	聴ける	 相手の考えを聴ける	 相手に質問できる			

★学級の子ども一人一人がどのステージにいるかを見取り、それぞれが少しでも次のステージに進めるようにしたい。

令和7年度の研究も道徳の授業で進めていきます。

- ・正解が一つではない。はっきりした「正解」があるとは限らない。
→どんな意見でも受け止めてもらえるという安心感。むしろさまざまな視点で考えを言い合いたい。
- ・「塾で習った」「答えを既に知っている」ということがない。
→学力や知識量に関係なく、等身大の自分の考えや経験を話すことができる。
- ・「納得解」を得るための話し合い活動を一年間継続的に行うことができる。
→成長を見取りやすく、子どもたちも自己の成長を感じやすい。
- ・担当学年や専門教科に関係なく、一つの授業の教材研究や授業研究を学年・学校全体で行える。
→「学年が違う」「専門じゃない」などと遠慮することなく、教師（授業者も、共に考える仲間も）も等身大の自分の考えや経験で話し合える。

★道徳の授業を通して話し合いの基礎力を身に付け、各教科での話し合い活動に生かしていきたい。

⇒来年度からは全教科に研究を広げていく予定です。

(2) 研究の重点

- ① 子どもが他者と話し合うことのよさを感じながら、話し合いに必要な力を高めることのできる活動や授業展開を追究する。
- ② 子どもが他者の考えに触れたり他者と話し合ったりすることを通して学習課題に迫っていけるような、「学びを深める発問」を追究する。

(3) めざす子ども像

- ・課題に対して自分なりの考えをもち、仲間に伝えようとする子。
- ・仲間の考えに耳を傾け、話し合うことを通して自身の考えを広げていく子。
- ・話し合いによって広げた考えをもとに、課題に対する自分の考えを見直し、深めていく子。

(4) 手だて

① クラスタイムを活用した活動

→伝えようとする気持ちを高める。話す力・聴く力を高める。(個の力)

話す力・聴く力を高めることを狙った活動を推進委員が提案し、クラスタイムを使って活動に取り組む。各クラスで抽出児を決め、一年間の変化を記録する。活動内容は定期的に更新する。

② 学習課題に迫るための学びを深める発問チャート

→課題に対する子どもの考えを引き出したり、話し合いによって考えを広げたり深めたりすることを支援したりしながら授業を展開していく授業力を高める。(教師の力)

自分事として捉えるための発問、考えを引き出す発問、考えの広がりや深まりを促す発問、葛藤や対立を生じさせる発問など、学習課題に迫るための発問を予想される児童の反応と合わせてチャートに表し、学びを深める授業展開を考案する。

(5) R7年度の研究組織

① 研究組織



② 授業研究会の持ち方

- ・ 主題研究の重点と手だてを踏まえ、全員が授業を構想し、実践する。(公開授業)
- ・ 学年(特支も)で代表者を一人決め、道徳で公開授業・協議会を行う。教材研究は学年で協力して行う。
- ・ 全体授業研究は年2回、道徳で行う。全体授業研究は、全体で協議会を行う。
- ・ 全体授業研究は、教員が児童役として参加する模擬授業を事前に行う。

③今年度の授業者

全体授業【高】	5年	授業者(青木 隆助先生)	7月10日(木)
全体授業【低】	1年	授業者(竹内 みう先生)	11月13日(木)

ついでに

しなければいけないことを、さぼりたくなことはあるかな。

新しいゲームがやりたくて、宿題をさぼりたくなった。

暑くやる気がなくなって、掃除をさぼりたくなった。

アニメが見たくて習い事に行くのが嫌になったことがある。

実際にさぼってしまった回数と、さぼりたくてもがんばれば回数はどちらが多いかな。

さぼった数の方が多いなあ。

同じくらいだと思う。

さぼらないときはどういうときだろう。

たまに忘れちゃったり宿題や係の仕事をがんばっているよね。

なまけたくなるけど、がんばろうと思えるのはどうしてだろう。

さぼったら叱られるから。

周りに迷惑がかかるから。

やれば褒められるから。

終わったら楽しいことが待っているから。

大変だけど、がんばれば成長できと思うから。

叱られないとしたらがんばらない？

迷惑がかからないことならがんばらない？

宿題が終わっていないこともゲームは楽しめるのでは？

どんなところが成長できそうかな？

さぼってしまうかもしれない。

自分のことだからやらないんだめ。

がんばれば褒められるかも。

やらなきゃいけないことを先にやった方がいい。

苦手なことも少しずつできるよになる。

自分にできることを増やすため。

自分が自信がつく。

最後まで諦めないでやる力がつく。

自分がしなければいけないことをやりきったとき、どんな気持ちになるかな？

これって叱られて落ち。

みんなに褒められて嬉しい。

終わらせることができて嬉しい。

これで画いっきり楽しめるな。

がんばってみてよかったな。

次もがんばろう。

がんばれる自分になっているためには、どんな気持ちを大切にするといいだろう。

やらないと叱られるけど、がんばれば褒められるかもしれない。それに、苦手なことが少しはできるよになるかもしれない。

面倒くさいけど、やってみたら楽しいかもかもしれない。終わったら後はすっきりした気持ちで過ごせる。

さぼりたくなっちゃうかもしれないけど、がんばれば自分の力が伸びるし、みんなも気持ちよく生活できる。

→ 収束

本時の目標（学習課題）は達成できたか？
 学びの深まりはあったか？
 ⇒見取ることができる発問（ふり返り）

【クラスタイム】

伝えようとする気持ちを高める。話す力・聴く力を高める。(個の力)

★毎週水曜日の掃除の時間を「クラスタイム」とし、全学級で対話力を高めるスキルトレーニングを行う。
→夏休みまでは、「アドジャン」という活動を行う。

→全校で「型」を揃える

- ・子供が変わってもできる
- ・担任が変わってもできる
- ・ルーティーンが決まっていると、子供が安心して活動することができる

→話し合うお題は10項目

- ・話し合うお題については、担任で決めたり、子供達に考えさせたりしてください。
- ・テキストや、例はロイロノートに入れておきます。

ロイロノート資料箱→学内 先生のみ→R7→主題推進→クラスタイム

★各クラスで抽出児（2名、特支は1名）を決め、1年間の変化を記録する。

→記録は月に最低1回は行う

- ・聴く、話す、土台のスキルの中から1つ、その月に伸ばしたい力について記録をとる。他の項目については、気づきやメモを取りたい場合は記録しておく。

→記録は、できるだけ活動中に行い、ロイロノートに保存する

- ・ロイロノート→職員室→主題研→共有ノート→自分のクラス

◎わからないこと、気になること、こうしたらいいのでは？など、気軽に高橋や主題推進の先生方に話していただけるとありがたいです。

子供達が、話し合い活動が楽しいと思える時間になるようにしたいと思っています。

よろしくお願いいたします。

【活動の進め方】

1 めあての確認

※クラスの実態に合わせて身につけたい力を中心に、めあてを確認

(例)

- ・自分のことをより知ってもらえるように話をしよう
- ・友だちのことをよりよく知ろう
- ・友だちの目を見て、話をしよう
- ・うなづきながら聴こう

2 ルールの確認

- ①「ルール」を電子黒板に映しながら確認
- ②「アドジャン」と言いながら、グーまたは、1から指5本までのいずれかを出す。
合計が2桁になったときは、1の位で数を決める。
- ③全員が話終わったら、再度「アドジャン」をして新たなお題で話す。

ルール

- ①「おねがいします」ではじまり、「ありがとうございました」でおわります。
- ②ともだちの目を見て、話をします。
- ③ともだちの話は、うなづきながら、笑顔で聴きます。
- ④ともだちの話は、ひていしません。
- ⑤1分間は話しつづけます。とちゅうで時間がきてしまったら、とちゅうでも話をおわります。
- ⑥話したくないようは、「パス」をしてもかまいません。



3 活動1

- ①2～4人グループを作る
- ②タブレットを1台グループに置き、お題が見えるようにする。
※タブレットの置き場に注意（活動の邪魔にならないように、机の端に置く）
- ③1（～2）分間続ける

※理由は活動2で伝える。理由は言わずどんどん答えていく。

→始めは、たくさんの友達と関わりをもたせるために活動1を繰り返し行ってもOK（クラスの実態に合わせて）

- ④教師が活動1への価値づけをする（フィードバック）

(例)

- ・うなづきながら聴いていたね
- ・友だちの方を見て、話すことができていたね



←このグループだと8
のテーマについて一
人ずつ話していく

4 活動2

- ①活動1で答えた理由について質問し合う（アドジャンは行わず、質問したいことから）
※活動1の続きはしない
- ②2分間続ける

5 ふりかえり（シェアリング）

- ①自分の心の中（目を瞑って30秒）、友達などと、その時に合わせてふりかえりをする
※順番ではなく、話したい子から
※話したくないと思う子にも、声はかけるけど、無理はさせない

⑩ お寿司は何皿食べる？

① 焼き肉かお寿司どっちがすき？

② 夜ご飯に出たらテンションが上がるおかずは？

③ ご飯かパンどっちがすき？

④ 苦手な食べものは？

⑤ すきなアイスは？

⑥ すきな飲み物は？

⑦ すきなおかしは？

⑧ 高級レストランか食べ放題どっちに行きたい？

⑨ 今食べたいものは何？

↓ ◎ ○ △ で表記

土
台
の
ス
キ
ル

①活動を楽しんでいる

③誰とでも話すことができる

②いろいろな意見があることに気づく

④最後まで聴くことができる

話
す
ス
キ
ル

①「おねがいします。」「ありがとう
ございました。」が言える

③考えを伝えることができる
(筆談やタブレットも可)

②相手の目を見て話す

④時間いっぱい話すことができる

聴
く
ス
キ
ル

①やっていることをやめる

④うなずきながら聴く

②体を相手に向ける

⑤最後まで聴く

③相手の目を見て聴く

月 日

メモ